

しながらしないように、いつもいつも気をつけている。さもないと、天の父さまのお膝元では誉めていただけない破目になる。

2 だから、あの①御立派ぶりの大根役者どもが貧乏人に施しをする時に、人に誉められたい一心で寄合だの街の辻々でおのれが前でピーヒャラドンドン笛太鼓を鳴らし鳴らしするものだが、お前さんたちが施しをする時には、あんな真似などするものではないぞ。お前さんたちにシツカリとこの俺は言っておく。鼻高々のあのお歴々はヤンヤと人から誉めそやされて、今その御褒美をいただいている。後はない。

3 施しをする時には、右の手のすることを左の手に勤づかせるな。4 お前さんがする施しが人目につかないようにするためだ。そうすれば、人目につかないことをシツカリと見ていなさる父さまに認められて、お前さんのしたことはやがて必ず報われる。」

二三・神さまのお声に耳を澄ます時

参照 ルカ 11:2-4

「5 心をこめて神さまのお声に耳を澄ます時にも、お前さんたちはあの御立派ぶりの大根役者どものようではないけない。あの大根役者どもは、人に見せびらかそうとして、寄合だの往来の辻に立つて、これ見よがしに神さまのお声に耳を澄ますのが大好きだ。お前さんたちにシツカリとこの俺は言っておく。鼻高々のあのお歴々はヤンヤと人から誉めそやされて、今その御褒美をいただいている。後はない。

6 だから、お前さんが神さまのお声に耳を澄ますうという時には、奥の部屋に入って、戸を閉て、隠れた所にいなさる父さまにただひたすらに心を向ける。そうすれば、人に隠れた行ないをシツカリ見ていなさる父さまに認められて、お前さんのしたことはやがて必ず報われる。

7 また、お前さんたちは神さまのお声に耳を澄ますうという時に、「神さまの心のサツパリわかつて

いない」あの夷狄^{えびす}どもみたいにペラペラペラペラ喋^{しゃべ}くるな。あの連中は、口数が多い程願^{ねが}い事を聞いてもらえるものだと思^{おも}いこんでいる。⁸ あんな者どもと同じにはなるな。お前さんたちの父^{とと}さまは、願^{ねが}う前から、お前さんたちには何が入り用かということなど、よくよくわかつておいでだ。⁹ だから、このように申し上げろ。

天においでのお父さま、

その尊^{たうと}さに人みなが心から手を合わせますように。

¹⁰ お取り仕切りの来ますように。

お膝元^{ひざもと}でのそのように、この人の世に御心^{みこころ}が、

ピッタリそのままなりますように。

¹¹ 今日の御飯をただかせてください。

¹² 人への貸しもないことにしましたので、

わたしどもの借りもないことにしてください。

¹³ わたしどもの心をお試しなさらず、

悪い者からお助けください。

¹⁴ 人のしくじりを赦^{ゆる}せば、天のお父さまもお前さんたちを赦してください。¹⁵ しかし、もしお前さんたちが人を赦さないなら、父さまもお前さんたちの過ちをお赦しにならない。」

二四・飲み食いを断つ時

「¹⁶ 飲み食いを断つて神さまへ心を向ける時に、お前さんたちはあの御立派^{ごりつぱ}ぶりの大根役者^{だいこんやくしや}どもの真似^{まね}をして、ゲツソリとやつれた顔を作っているが、そんな猿芝^{さるしばい}居^いはやめておけ。あの旦那^{だんな}衆^{しゆ}は、飲み食いも断つて神さまへ心を向けているのだと人に見せびらかしたい一心で、わざわざその顔をみつともなく作るものだ。お前さんたちにシツカリとこの俺は言っておく。あのお歴々^{れきき}はヤンヤと人から誉^ほめそやされて、今その御褒美^{ごほうび}をいただいている。後^{あと}はない。¹⁷ お前さんが飲み食いを断つて神さまへ心を向ける時には、鬻^{びんづ}付け油^{あぶら}をタップリつけて、顔も念入りに洗え。¹⁸ それはな、お前さんが飲み食いも断つ

イエス、祈りを教え給う

(マタイ福音書六章七—一五節)

私たちは、イエスが、普通私たちが「主の祈り」と呼んでいる言葉による祈りを、その弟子たちにも、どのように教えられたかを読んだ。まず、イエスは弟子たちに、次のように忠告した。

あなたがたが祈る時に、異教徒のように多くを語ってはならない。なぜなら、異教徒たちは、彼らが多く言葉を口にすると、人に聞かせることを考えているからである。

私は言った。「多くの言葉を口にする」の然るべき表現は、本来、《plappern》(＝ペラペラよくしゃべる、機械的に唱える、棒読みにする)である。マタイがここで用いているギリシア語は、つまり「ひとりひそかにぶつぶつ唱える」というほどの意味を持った *battalogen* である。

ウィリアム キリストが弟子たちに、異教徒のように祈ってはならないと言ったとすれば、それは僕の見るところ、事実、ユダヤ人たちは異教徒のように祈っていたということになる。また福音書の他の所で、キリストはパリサイ人たちが長い祈りをすることを責めている。とすれば同じことが多く

のキリスト教徒に言えると僕は思う。なぜなら、このユダヤ人たちが他の宗教の信徒とまったく同じようなやり方で祈る人たちが居るからだ。このイエスの批判は非常に重大だね。なぜかってこの批判は、すべての宗教で一般的に行われているやり方を攻撃しているんだから。そして非常に宗教的だと見なされている人々について、イエスは、彼らが神に関して何も知っていない、すなわち異教徒だと言っているんだ。そしてイエスは今、本当に革命的な、まったく違った方法で祈ることを弟子たちに教えるんだ。

私は言った。——聖アウグスチヌスによれば、キリストは主の祈りを、人々が暗記しなければならぬような決まり文句の式祷文として教えたわけではないんだね。その証拠にマタイの福音書では、ルカの福音書と違う言葉で書かれている。もし、イエスがひとつの式祷文を教えようとしたのだったら、イエスはきつと、弟子たちが正しく暗記するようにと言っただろうからね。

私たちは冒頭の言葉を読んだ。

天にまします、われらの父よ

私はひとつの説明をしたかった。事実、イエスは《父》という言葉でなく《Papa》（＝おとうさま、あるいはパパ）という言葉を用いている。マルコはイエスが（彼の母国語である）アラム語によって、ゲツセマノの園では、この《Papa》ほどの意味を持つ《Abba》＝父、父なる神）と仰せられたこと

を書き記している。そしてイエスは神と話を交わされる時には、つねにこの言葉を用いていたんだ。

「天にまします」という言葉は、神の御名に対するユダヤの表現方法なんだね。尊敬の念から、ユダヤ人たちは《神》という言葉を用いずに、それを《天》と書き変えたんだ。

だからマタイは、神の国を「天の国」と呼んでいる。だから正しい翻訳は本来、「天のわれらのおとうさま」、つまり「神であるわれらのおとうさま」と言ったんだね。

オリヴィア 神さまには、私たちが最初から信頼感を持つことができるように、ほんとに愛情深く呼び掛けられていらっしゃるのね。私たちが神さまをババと呼ぶなんて……祈るってことは、お祈りの文句をただ機械的に唱えるってことじゃなくて、ほんとに単純に神さまとお話することなのよね。

テレシータ 私たちが神さまにババって申し上げるとしたら、私たちはもう神さまが怖くなったりはしないわね。私たちは本当に神さまとお親しいのね。

ウィリアム 神の国がつねに天の御国みくにと呼ばれた事實は、元来、大きな混乱をひき起こしている。

人々は、神の国が将来やって来るのだ、それも天国で、他の生命においてって考える。しかし、イエスが言ったのは、この地上の国のことなんだ。また、人々が「天にまします」と言っていることは、私たちの頭のなかに恐ろしい混乱をひき起こしている。すべての人間が、神さまはどこか、宇宙飛行士たちが飛び廻っている天国にいらっしゃる方で、私たち自身のうちに居らして、私たち同胞のすべての中に居らっしゃる方とは考えない。

フエリオ ユダヤ人たちが神に対する崇敬の念から、神にこの名を与え、キリスト自身も神という名を挙げていないのだったら、たとえ私たちが神をつねに口にすることがなかったとしても、それは悪いことだろうか？ つまり、僕たちキリスト教徒はいつも、神、神、神って言っているが、それは恐らく、僕たちが神をまるで独裁者のように考えているという瀆神行為なんじゃないだろうか。そしてこの世には恐らく無神論者とも言うべき他の人間たちが居るけれど、彼らはその同胞を、僕たちキリスト教徒よりずっと愛しているよ。彼らの方がよほど神に対する尊敬の念を持っていると僕は思うな。

フエリオの母レベッカ。—— だけどまさにイエスさまは、私たちが神さまを「パパ」と呼ぶように言っただけじゃらないの。そうすれば、私たちは神から遠く離れた存在だとは思えないでしょ。イエスさまだって、神さまのことを「わが父よ」と言わずに、「わたしのパパ」とも言わずに、「わたしたちのパパ」と言っただけじゃなく、なぜなら、神さまが私たち皆の父親だからよ。私たちは皆、神の子供たちなのよ。キリストだけじゃない、皆が神の子供なのよ。だから、私たちは皆、兄弟でもあるのよね。

ナタリーア そうよ、兄弟なのよ。私たちが神さまのことを話せば、私たちは皆、同価値なんだって声明することになるわ。私たちが同じパパを持っているんだったら、私たち皆もまた、兄弟同志愛し合わなければならないわね。もし、誰かが搾取者が存在することに賛成であっても、彼はそうなることを祈ることはできないわ。

レベীカの夫マルセリーノ。——主の祈りというのは共同の祈り、われわれすべての祈りなんだ。これはひとりだけで祈ることはできないもので、ただ他の皆と一緒に集団で祈るものなんだ。僕たちが祈るすべてのことは、皆のことを考えたうえのことだ。

御名みなの尊とうとまれんことを

私は、ユダヤ人たちにとっては、聖性や正義といったものは、神と同じものを意味している、と説明した。神の御名を尊ぶことは、私たち、人間の間における神のご公現なのだ。《名前》という言葉は、ユダヤ人たちにとって、《人物》あるいは《人格》と同じことであった。この「御名の尊まれんことを」という願いは、「あなたという御方がよく知られますように」あるいは「あなたが（正義を括めておいでになることが）、認められますように」と、翻訳される方がよいだろう。

フエリペ・ペーニア 尊むとうとということは讃美歌をうたったり、祈ったり、祈禱行進をしたり、聖書を読むことと同じではないんだ。むしろ、神の御名を尊ぶということは、隣人を愛することであり、他人のために何かをするということなんだ。僕たちが昔のように、神を祈りや祈禱行進で賞めたたえたとすれば、僕たちは神の御名を絶対に尊んでいることにはならないんだ。言い換えれば、愛というのは、神の御名を尊ぶこと、神の人格をここ、地上に伝えるのと同義なんだ。もしかすると、たとえ、

その際に、神の名が口にされることがなくとも。

アレファンドロ 神の正義というのは、聖なること、義なることを実行する、すなわち神を尊ぶことと同じことだ。しかし、正義を俗流の正義と理解してはいけない。正義というのは、あらゆる搾取の終わり、解放と同じものなんだ。人々は神の正義を、実際われわれの間に実現するということによって、神をこの地上に伝えるんだ。

御国みくにの来たらんことを。

ラウレアノ 平等が支配し、同胞愛がすべての人々の間に存在すれば、この待ち望まれた御国はすでに存在することになる。僕たちはほんとうにここに御国みくにが来ることを望んでいる。御国を建設するため、僕たちは存在するんだ。

トマス 僕らが御国が参りますように、ってことを願ってるっていうのは、御国がまだ来ていないからでござえましょう。そして僕らが御国が参りますように祈っていれば、御国も参りますんでしようが。そして御国が来るとすりゃあ、天国や他の国に比べてことではございますまい。そうでなかったら、僕らは、御国が来るようになって祈らねえで、僕らの方から、そっちへ参りますだ。神の御国ってのは、この地上に来なければならぬんだが、まだ来ていない何かでしょうが。とにかく僕は、僕の足りない知恵でそう思ってますだ。

ラウレアノ 僕たちが御国を乞い願っているなら、御国ができる限り早く来るように、なんでもしなければならぬ、という義務を負っていることにもなる。そんなことにまったく関心がなく、そのために何もしようとは思わず、この御国に反対する者は、この祈りを唱える権利はないんだ。ここで大切なのは、人間たちの間に、人間たちによって創られる国、すなわち、神から出たものであっても、われわれなくしては、その建設が不可能なんだ、ということだ。

ロジータ それが愛なのよ。

エルビス そして、ラウレアノがもう言ったように、僕たちが行動することを避けられないようにする、これが祈りなんだ。

私が付け加えた。――私たちにはこの願いが、事実上は、「御名の尊まれんことを」という最初の願いと同じものだということが解ったね。じゃあ次に行こう。

御旨の天に行われるごとく、地にも行われんことを。

オリヴィア 天では愛が支配していて、利己主義なんてものはないのね。不正もなければ、迫害もない。だけどこの地上では、私たちはまったく違った生き方をしているわ。このお祈りで私たちが願っているのは、私たちはここ、地上でも、あの天国とまったく同じように生きたいということなんですよ。私たちはこの国が、ここ地上にも実現されるのを見るまでには、まだまだ多くのものが欠け

ているわね。地上では、ひとりの人が飢えているかと思うと、他の人は食物をむだにしている。ある人が薬もなく病気で苦しんでいるかと思うと、他の人は、自分たちが必要としている以上のあり余る医学的な介抱を受けているわ。誰かが筆筒いっぱい洋服を持っているのに、他のひとは、まだ一度も着替えすら持ったことがない。そういうことから、最後にこの国を見るまでには、まだ多くの仕事が必要ならなければならないのね。

——ここ地上でだって、天国と同じような生活がなされなければならないわ——と、テレシータが遮った。——地上に天国を創るっていうこともできるでしょ？。

——神の御旨^{みめし}というのは愛のことでしょ——と、ゲヴァラの娘たちのひとりが言った。

私は言った。——私たちは、ここにもまた、他の願いと同じ願いを見ることがになった。つまり、人々の間に神の愛が実現されるようにという願い、愛の御国である神の御国が来たらんようにという願い、愛である神の御旨が行われるようにという願いだ。

フェリペ「あなたの御旨が行われますように」ということは、また、彼の教えが行為に移されますように、という意味だ。だから正義が実行されますように、ということだろう。これは、平等と同胞愛の公平な体制を意味しているのであって、搾取のそれではない。一言で言えば、神の御言葉がなし遂げられますように、ということなんだ。これはパンを、と願う願い、私たち皆が十分にものを戴くことができますように、ということと同じことだ。

マヌエル・アルヴァラド オリーヴィアが言っていたパンとその他の物というのは、つまり、衣服

や医者の手当てや、俺たちが必要とする他のすべてのものだね。パンという言葉には、それらすべてが含まれているんだ。

きょう、日用の糧を私たちに与え給え。

フリオ・マイレーナ キリストは、すべてをたった一日のようにみなすではなかったかな。キリストは言っている、われらの日々のパンをと、この日のためのパンをと。キリストにとっては、毎日がまったくたった一日のようではなかったのかな？

幾人かの人が、フリオにもっと詳しく説明するように頼んだ。すると彼は言った。――僕たちが「明日」とか「明後日」とか言うのとは違うんだ。キリストにとっては、すべてが唯一日ではないんだ。なぜなら、僕たちが始終、パンを乞い願わなければならないとするならば、きょうはきょう、あすはあす……僕は彼がいつの日もと言ったと思うんだ。

フリオが笑った。――そうなる具合が悪いからか？ 違うかい？

オリーヴィア 気をつけなさい。神さまが私にあり余るほどのものを下さったとしたら、私にはもう何か不足なものがあるかも知れないなんて考えないし、そして神さまのことだって、もう考えないかも知れない。だって、私は満たされているんだから。そして私はもう、他人のことなんかも考えないし、何も私の興味をひかないわ。だけど人は毎日、その日の糧を神さまにお願いするわ。まるで

パパにお願いするみたいだからね。毎日、何かを必要とする小さな子供みたいに。そして人は十分なパンをお願ひする。それは私たちが、ただちょっとしたレースの縁飾りが欲しいというのは問題が違ふのよ。

フュリオ 僕は、僕たちは皆、たったひとつの仕事をしなければならぬって思うんだ。つまり、社会を変革するってことだけれど。その日の糧を僕たちは持っている。いつも。毎日。どんな時もだ。それを僕は言いたい。もし僕たちが一生^{きよう}涯、今日^{けふ}も明日^{あした}も明後日^{あさって}もたったひとつかけらのパンを乞わなければならぬとしたら、……そんなふうな悲惨さのなかで、僕たちが生きなければならないとしたら。いいや、違うんだ。僕たちはひとつの仕事をなし遂げなければならない。そうしたら、その後は僕たちはいつだって食べるものも着るものも、その他の物も持っているだろう。イエスは恐らくただ、たった一日のことを言っているのではないんじゃないだろうか。

ラファエル フュリオが言っていることは、とても正しいと僕は思うんだ。それは永遠ってことを言っているんだろう？ 違ふかい？ しかし、ラウレアノが言ったように、すべてを蓄積すべきだっていうことも、正しいんだ。僕たちは、僕たちが本当に必要としている物だけを神に願って、もしかすると、誰か他の人が必要とするようなものを所有したいと思つてはならないんだ。解るかな？

オスカーとフュリオの母レベッカ。——私は、神さまが日々、パンを与えて下さるってことが解っているの。神さまは毎日、皆にパンを与えて下さるわ。だけど地球上では、すべてを自分ひとりのために貯めこみたいと思つている人も居る。そうすると他の人は飢えなければならないのよ。だけど

神さまは、私たち皆に食べるものがあるように、誰もが飢えたりしないように、皆にパンを与えて下さるんだわ。

マルセリーノ 僕たちは、われらのパンを願うんであって、僕のパンを願っているわけではないんだ。ちよと、神をわれらのパパと言って、僕のパパとは言わないようにね。そして、われらの日常の糧を願うということは、きょうもあすも誰も飢えたままではないように、すべての人々のために乞い願うことなんだ。

私は言った。——この祈りもまた、他のすべての祈りと同じなんだね。つまり、愛の御国が来て、その日には、すべての人のために十分なパンがあるように、ということなんだ。

ナタリーア そうよ、何人かの人たちがあり余る贅沢のなかに生き、一方で他の人々が飢えるなんてことがないように、すべての人々のために十分なパンをね。それが神の御国みくになんだわ。

フェリオが笑いながら言った。——するとその後で僕たちは、すべての人が十分貯めこむようになってお願いするのかい？ すべてをあり余るほど持つようになってお願いするのか！ 彼らが余分に持っているものを奪うていうのが、僕たちの使命じゃないか。彼奴らは自分のものでないものを所有しているんだ。彼らが余分に持っているものは、それを欠いている他の人々のものなんだ。

私。——主の祈りのなかで、私たちは社会の変革を願うこともできるだろう。私たちは、今ではほんの数人の人間が自分のためにだけ持っている物を、私たちが必要に従って、それぞれをすべての人に分けることができる日が来るように祈る。そして、私たちはその変革をただ、祈るだけでなく、そ

のために協力しなければならぬということも解った。

レベীカ 私たちが皆、平等になって、もう、貧乏人もお金持もいなくなるというのが、解放することなのよ。

——神の御国——と他の男が付け加えた。

レベীカ 神の御国とは、解放のことなのよ。

フェリペ それは神の御旨がすべて満たされた国なんだ。

オスカール もし、僕たちが神に、パンやすべての必要なものをお願いしなければならぬとしたら、エルネスト、僕たちは、もう言われたことだけれど、僕たちのためにだけでなく、すべての同胞のために闘わなければならないんだね。だけれど、僕たちがこの目的を達成することができなくても、その限りにおいて僕たちは満足しなければならない。なぜなら、神の御旨^{みむね}ってものは、もしかするとその瞬間のうちにもあり得るんだから。

——違う！ とラウレアノが遮った。——それは妥協主義じゃないか。

オスカールの母。——搾取と協調することよ。

オスカールが続けた。——違う、それは搾取と同調することではなく、神の御旨に従うことなんだ。僕はこのことを、こう理解している。僕たちがここで不正義のグループのように反抗し、闘っても、僕たちの欲するところを実現できないということがあり、それで僕たちがこの変革に瞬間的にさえ到達できなかったとしても、それは神の御旨^{みむね}が行ったことなんだ。しかし、だからって、簡単に諦める

ってことではないんだ！ 僕たちは闘い続けなければならない。

私はオスカルに、私たち自身の責任によらない敗北を、事実、私たちは受け入れなければならない、と言った。私たちは不可避なものを拒否してはならないが、ただ避けられるものに対してはただ抗わなければならない。時には、敗北からだって、何かよいものが生じることがあるんだね。この意味においては、そう、敗北も神の御旨であり得る。イエスが彼自身の敗北を目にし、彼が以前、弟子たちに教えたのと同じ祈りを、ゲッセマネの園で唱えたことを思い出してみよう。マルコによれば、イエスは「父よ、御旨のままに行われますように」と祈っている。

オリヴィア 神の御旨というのは、私たちが生きている究極目的でしょう。その御旨が、私たちにあらゆる種類の災害を望むなんてことはあり得ないわ。私たちの幸せを望んでいるんだから。この意味で、私たちは私たち自身の苦しみや不幸にも同意することができるところか、それを幸せだときえ思うんだわ。

私たちが、私たちに負い目を持つ人々を許すように、私たちの負い目もお許し下さい。

オリヴィア オスカルが言っていた一致団結を、私たちが示さなければならないっていうのは、このことなのね。なぜなら、ある人間が私たちを侮辱したとしたら、それは彼の無知から出たことなのよ。そして私たちは私たちの側からも彼を侮辱する代わりに、彼を許さなければならないんだわ。

私。——私たちはどんな憎しみも、どんな報復感も、まったくどんな否定的な感情も、持ってはならないということなんだ。そうではないのかな？

レベーカー 私たちは、利己主義エゴイズムより他の何ものでもない私たちの負い目を、神さまに許してもらおうお願いしなければならない、と私は思います。だけど、私たちがそれ以後も利己主義者のままでいるとしたら、神さまのお赦しを願うなんてことは、なんの役にも立たないわ。神さまが私たちに耳を傾けて下さるように、私たちは変わらなければならないのよ。そしてだからこそ、私たちは、私たちが許すように、神さまも私たちをお許し下さいって、申し上げるんです。

ウィリアム 私たちには、神の御国みくにというのは愛の御国であるということが解った。利己主義が存在する限り、この国はまだ来ていないということになるね。利己主義が存在する限り、私たちがバラバラで、お互いに愛し合わない限り、すべての人間にパンが与えられることはないだろう。もし私たちが、食物や衣服やすべて必要なものを持っていながら、同時に、私たちの間を憎しみや報復感が支配しているようだったら、それはなんの何にも立たないだろう。そうじゃないか？ だからまず最初に、すべての人々の間に愛がなければならぬんだ。

オスカール 愛がなければ、神の御国みくにもまた存在しないんだ。

フェリペ そして神の御旨も実現されない。それは瞬間的に行われることなんだ。

コスメ・カナラス 俺たちは、俺たちに負い目を負う人を許すべきだ。それは何かの侮辱かも知れない。それが借金だってこともあり得るだろう。俺たちが貸した金を返してくれるように、何かを持

っている人に要求してはならないとは、俺は言わないよ。だが、何も持っていない人に対しては、俺たちはこの人の負い目を許すべきなんだ。多くの金持にとっては、借金を帳消しにするよりも、侮辱を許す方がやさしいんだ。

ロジャータ これまでに、金持が貸金を帳消しにしたりするのをいつ、見た人がいるっていうの！ コスメが続けた。——すると金持は侮辱だけではなくて、貸金をも許す用意がなくては、この祈りも、唱えることができないということになるね。

チャエル この祈りが金持たちのためではないってことは、はっきりしてることだよ。主の祈りというのは、パンを持っていない貧しい人々のためだけのものなんだからね。

私は言った。——この最後の式祷文の形は、昔の翻訳では、「私たちが私たちに負い目を持つ人々を許すごとく、私たちの無礼をお許し下さい」となっていたが、それが「私たちを侮辱した人々を私たちが許すごとく、私たちの無礼をお許し下さい」と書き改められたんだ。しかし、マタイは「借金」とまったく同じことを意味するギリシア語を用いたので、最初の異本の方が正しかったんだね。この言葉は、昔はよく、収税吏やみつぎとりが職業に従っている時に使われたものなんだ。

われらを試みに引きたまわされ。われらを悪より守りたまえ。

フリオ・ラモーン 誰によって、私たちは、試みにあわされないようになるんです？ きっと悪

魔によってだと、僕は思いますよ。

アダーン・オルテガ　僕は、この試みっていうのは、今日では搾取であり、資本主義だと思うね。

もうひとりのフリオ　僕たちは皆、ここで社会の変革について話すことが多いね。恐らくこの関係において、ある日、僕たちが権力を持つようになった時に、僕たち自身が一度は試みに引かれることになるだろう……するとそれは僕たちにとって、非常に難しい試練になるだろうな。

トマシート（彼は非常に寡黙である）。——「悪より守りたまえ」というのは、神が私たちを不正を行うことから解き放つて下さるという意味だろう。それは大切なことだと、私は思う……

フェリペ　言葉を換えれば、僕たちを利己主義エゴイズムからお守り下さい、ということなんだ。僕たちの間にある最大の悪は、利己主義エゴイズムなんだからね。他人を支配したいと思っている人間は誰でも皆、利己主義者エゴイストなんだ。他人のものを掠め盗る者だかすって、利己主義者エゴイストだ。だから僕たちは神に、利己主義エゴイズムからお守り下さいと、お願いしなくちゃならないんだ。それは悪なんだよ。愛は悪の反対なんだ。悪は愛によって滅ぼされる。愛は悪よりも強い唯一のものなんだ。

フリオ・マイレーナ　イエスは言っている。神は僕たちが何を必要としているかをご存知なんだから、僕たちは多くの言葉によって祈ってはならないと。——たとえ神がそれをよくご存知だとしても、しかし僕たちは言葉少なに祈ってはいけないんだ。このような祈りは教会においては異教的だと僕は思うけれど。神が、僕たちが祈ることをまったく望まれず、僕たちが行動することを望むなんて

ことは、あり得ないんじゃないのか？

私は答えた。——キリストは、私たちにまったく祈らないようになどと言ったことはない。そうではなくて、私たちはお祈りのときに、異教徒たちがするように、多くのことを願ってはならないと言っておられるんだ。なぜなら神は、私たちが何を必要としているかをご存知だからね。イエスご自身だって祈っておられるし、ルカはキリストがこの祈りを彼の弟子たちに教えたことを、私たちに語っている。なぜなら弟子たちがイエスの祈っておられるのを見て、イエスのように祈ることを学びたいと思ったからだ。イエスは明らかにこの主の祈りを声に出して祈っている。というのは、この祈りこそ、イエスがご自分の弟子たちに教えた祈りであり、他の祈りを教えたわけではなかったんだからね。ラウレアノ これらの数少ない言葉は、つまり、そのままですべてを包括しているんだから、僕たちはそれ以上の言葉を使う必要がないんだ。だからこそイエスは、異教徒のようにペラペラと祈ってはならない、と言ったんだ。僕たちはこの他に、ズボンとかシャツとか靴とかいろいろなものを願う必要がないんだ。なぜなら、これらすべてのことは、変革を求めているこの祈りの中に含まれているんだから。

レベーカー 私たちは、愛がこの世を支配するように、お祈りするわ。すべての悪が消え去るようにね。

私は言った。——さて私たちは、^{ただひと}實際上、すべての祈りは、唯一つの祈りであること、解放を求める祈りであること、つまり、解放そのものであるイエスの名が地上に伝えられるように、というもの

であることを理解したね。そのことが、神の愛の御国が来るように、愛である神の御旨が行われるように、すべての人々に十分なパンが与えられるように、他の人々を赦すことによって神が私たちをお赦しになるように、ということであるんだ。なぜなら、他の人々を傷つけたり、侮辱したりするのは、神を傷つけたり侮辱したことになるんだからね。そしてそれは、神が究極的に私たちをすべての不正からお守り下さるように、ということなんだ。

ナタリーア 同胞愛の国には、正義とパンと赦しと愛があるのよ。この祈りによって、それらすべてのことが言われているのよ。

フュリオ それじゃあ、主の祈りを何回祈っても、異教徒のように祈ることにはならないんですね？
ウィリアムが言った。—— 私たちは神に、御名の尊まれんことを、と祈るんだけれど、神の御名を尊ぶことは、私たちの使命なんだ。また私たちは神の御国が来るように、と願うんだが、その国を建設するのは、私たちの使命なんだ。さらに、地上にも御旨が行われますように、と私たちは願うんだが、それを実現することは、私たちの使命なんだ。私たちは神にパンを、と願っているが、パンを生産してそれを分配するのが、私たちの使命なんだ。私たちは、神が私たちをお許し下さるように願っているが、私たちも他の人々を許さなければならぬ。試みに会わせて下さるな、と神に願うことは、試みを避けることが私たちの使命だということなんだ。これらのことが、この祈りの肝要なところなんだ。チェ・ゲヴァラのように、この主の祈りを唱えたりしない人も少なくないと思うが、そして、ゲヴァラは恐らく、この祈りを唱えたことがなかっただろうが、心の中では、これらすべてのことを

望んでいたはずだ。

私は言った。――主の祈りは、私たちが祈り、また実行しなければならぬ祈りだが、それはまた、キリストがこの地上で実現し、パウロ以後も絶えず心の中で実現し続けて来た祈りなんだ。

最後に私はガラテア人への手紙（四章六節）を読んだ。「私たちが神の子であるから、神は神にむかって『父よ (abba, papa!)』と呼ぶ、御子の霊を私たちに贈られたのです」。

主の祈り

天においでの お父さま

その聖なる御名——あらしむるもの——を
人みなこぞって たたえますように。

その御名にふさわしい お取り仕切りの 来ますように。
そのみこころが そのままに 天に行われるその通り、
この地上にも、成されますように。

今日のご飯を 頂かせてください。

人への貸しも ないことにしましたから
私たちの借りも ないことにしてください。

私たちは弱いのです。どうぞ、
私たちをお試しになることなく
悪いものから お守り下さい。